1 Aa－4　　ひとり暮らし高齢者の生活に及ぼす給食サービスの効果

山口女大家政　足立蓉子

〈目的〉　山口県大島郡東和町において、毎日型給食サービスを２年間継続し、当該給食利用のひとり暮し高齢者のＱＯＬに及ぼした効果を経年的に検討した。また、市販惣菜の利用に及ぼす要因との比較から、ひとり暮し高齢者の食生活のあり方を考察した。

〈方法〉　対象は、東和町在住の65歳以上でひとり暮らしの男女延べ人員 327人、うち有効回答は 278人であった。調査は1991年、1992年、1993年の7月から8月の期間に、質問紙による個人面接法にて行った。

〈結果〉　山口県大島郡東和町において、1991年10月からひとり暮らしの高齢者を対象に毎日型給食サービスを実施するにあたり、満足してもらえる食事を提供するために給食サービスに対する高齢者のニーズの分析を行った。その結果、食事内容の充実、孤独感の解消、健康度の向上、食事満足度の改善などがあげられた。そこで、多様な食品の摂取と人的ふれ合いを工夫した給食サービスを毎日継続し、１年後と２年後に当該給食利用の高齢者の調査を行った結果、食品摂取状況がよくなり、健康の自己評価が向上し、食事満足度の改善などの効果が認められた。また、給食利用者は給食サービスを高く評価し、１年後では 95%、２年後では 100%が今後も給食の利用を継続したいと回答した。一方、市販惣菜の利用に及ぼす要因の分析では、男性で調理ができない人、またグループ活動などにはよく参加しているが規則正しい生活をしていない人が、市販惣菜をよく利用していた。このような結果は、ひとり暮し高齢者の食生活を支えている生活援護型給食サービスの利用と市販惣菜の利用に対する高齢者のニーズが異なることを示唆すると考えられる。